

平成 28 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ キダ ユウスケ
氏名 木田 勇輔

研究期間 平成 28 年度

研究課題名 都市間競争の時代における大都市のイメージ戦略：その社会学的分析

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	木田 勇輔	文化情報	講師
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究は名古屋市および京阪神二都市（大阪市と神戸市）の事例をもとに、現代日本における都市のイメージ戦略をめぐるダイナミックな動きを明らかにする。近年、都市間競争の激化が強調される中で、都市のイメージアップを図る政策が全国の地方自治体（とくに大都市）で大きく広まりつつある。具体的には景観や観光スポットの形成、印象的なロゴの製作、市民参加によるイベントの開催、メディアを利用した広報の展開といった諸事業である。本研究では、これらの動きに熱心に取り組んでおり、地理的条件から調査が比較的容易な三つの大都市を取り上げ、実態調査を実施した。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

名古屋市と神戸市は「デザイン都市」、大阪市は「水都大阪」を掲げており、特徴的な取り組みを数多く行っている。本研究では社会学の視点から、これらの都市において①どのような個人や集団が、②どのような狙いをもって、③どのような関係性を築きながら、都市イメージの形成に取り組んでいるのかについて、実証的に明らかにすることを試みた。

名古屋市調査においてはデザイン都市政策に関する調査結果をまとめて学会発表及び論文の執筆を行った。また、あいちトリエンナーレに関わってアートのまちづくりを推進する名古屋市長者町地区について資料収集や現地視察を開始した。神戸市、大阪市の調査については夏と春に 1 回ずつ出張を行い、現地調査と資料収集を実施した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本年度の主要な活動としては2016年8月23～25日に大阪市で調査を、2017年2月14～16日には神戸市および大阪市で調査を行った。2回の調査で判明した知見は以下の通りである。

第一に大阪市では2000年代以降に「水都大阪」などのイメージ形成を中心とした都市戦略が展開される一方で、「うめきた」や中之島地区などの都心再開発が活発化しており、こうした動きは「都市再生」を巡る動きの中で表裏一体となっている点である。大阪市の事例では、こうした動きの背景には関西経済圏の「復活」を目指す地元経済界や行政などの意図が複雑に絡み合っている。そして、こうした動きは人口（とくにミドルクラス）の都心回帰と都心空間の「高級化」というジェントリフィケーションと呼ばれる現象と密接に結びついていると考えられる。

第二に、神戸市では2010年代に入ってから阪神大震災の教訓をメッセージとして発信する「BE KOBE」プロジェクトが市役所広報課から立ち上げられ、これがシビックプライドのプロジェクトとして少しずつではあるが拡大しつつあることが明らかになった。神戸市民にとって、震災の記憶とそこから立ち上がった市民の姿は、都市のアイデンティティを規定する核になりうるものであり、「BE KOBE」はそのような市民感情に沿うものであった。しかし、こうした動きが拡大化していくことは本来の目的とは異なった形で「BE KOBE」が利用されていく可能性を秘めていることから、今後の動向は引き続き調査していく必要がある。

また、2016年11月9日の日本社会学会でのポスター発表は、加筆修正の上で学部紀要に論文として掲載されるなど、本研究費を用いて一定の研究成果を生み出すことができた。

さらに、本研究費を用いて文書資料の収集も実施し、次年度以降の研究計画を立案する際の準備を行うこともできた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①都市イメージ	②都市政治	③都市ブランディング	④シビックプライド
⑤創造都市	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

(論文)

木田勇輔, 2016, 「都市レジームはいかに再編されつつあるか? ——1980年代以降の名古屋市政を事例に」『日本都市社会学会年報』34: 106-123.

木田勇輔, 2017 (近刊) 「グローバル化・情報化時代における「創造都市」をめぐるポリティクス——名古屋市におけるデザイン都市政策を事例に」『椋山女学園大学文化情報学部紀要』16: ページ数未定.

(学会発表)

木田勇輔「ポスト産業都市におけるイメージ形成の政治——名古屋市のデザイン都市政策を中心に」日本社会学会第89回大会, ポスターセッション, 九州大学伊都キャンパス, 2016年10月9日.